

キャラクター名
芥生蓮人

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ブラム=ストーカー		ワークス	暗殺者	カヴァー	しがいない浮浪者
	オプション		年齢	25	性別	♂
覚醒	渴望	衝動	加虐	初期侵食率	32	%
出自	兄弟：芥生焚人	経験	戦いの日々	邂逅	借り：リラ	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1	0	0	1		2	行動値	18
感覚	2	1	3	2		8	(非装備時)	18
精神	2	0	0			2	戦闘移動	23
社会	3	0	0			3	全力移動	46

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	6		RC			交渉		
回避			知覚			意志		1	調達	5	
運転：大型二輪	2		芸術：			知識：レネゲイド	2		情報：裏社会	4	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
アサルトライフル	射撃	8r+5	0	9		同エンゲージ不可。
対抗種効果		0		2D10		対オーヴァード時。メイン終了時にHP-3。
		0				★侵蝕ボーナスゲイスは別途計算
		0				★活性の霧使用時は攻撃力+9、12、15

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
【思い出の一品】アクセサリー	
十字架のペンダント	
コネ：UGN幹部	
コネ：情報屋	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	ゲイス	消費
対抗種<カウソク>レネゲイド	P 執着	N 恥辱		
屍人<リヴィングデッド>	P 遺志	N 脅威		
百目鬼一臣	P 尽力	N 不安		
春告島の「幽霊」	P 好奇心	N 不信感		
久木官	P 信頼	N 恥辱		
古谷幸史	P 同情	N 食傷		
幻影	P 憧憬	N 嫌気		

最大財産P: 16 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト：ソラリス	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果：	C値を-LV							
活性の霧(5)	3	3	セットアップ	至近	単体	自動	-	
効果：	R間、対象が行う攻撃の攻撃力+[LV*3]、対象のドッジゲイス-2個。							
猛毒の雲(5)	3	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	そのメインプロセスに行う攻撃で1点でもHPダメージを与えた場合、ランクLVの邪毒付与。							
痛みの水(5)	1	2	Xジャー	視界	単体	対決	-	
効果：	攻撃力+LVの射撃。ダメージを与えた時「放心」を与える。							
罪人の枷(10)	10	3	Xジャー	武器	単体	対決	-	
効果：	組み合わせた攻撃が命中した場合、そのラウンド間対象の判定の達成値を-[LV×2]							
滅びの一矢(5)	5	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果：	組み合わせた射撃攻撃のゲイス+[LV+1]個、HP-2点。							
オーバードーズ(3)	1	4	X/リ	-	-	-	100↑	
効果：	組み合わせたエフェクトのLVを+2。LV回/シナリオ							
冥府の棺(1)	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	重圧でも可。バステを受けた直後に使用。暴走以外のバステを1つ回復。							
【メモリー】芥生焚人	1	-	-	-	-	-	-	
効果：	失ってしまったもの、忘れようとしていたもの。その行為自体を悔いている。「ごめんな…」							
【メモリー】リラ	1	-	-	-	-	-	-	
効果：	今ここにいることへのきっかけは、大体この人のせいだ。どうして、この結末しかなかったんだろうな。							
声無き声	1	-	Xジャー	視界	シーン	自動	-	
効果：	幻覚伝達物質を媒介にして、自らの思念を離れた場所にいる誰かに伝えるエフェクト。相手の考えていることも、相手が心を開いてくれたなら聞くことができる。							
ケミカルスモッグ	1	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	視界を遮る物質を塗布し、周囲の見通しを悪くするエフェクト。							
効果：								

「葬送スノードロップ」用 経験点300点+メモリー分まで(基本130+成長済み170+メモリー30)

UGNに手を貸すようになってから、多分数ヶ月くらい。

あざみ れんと
パンダナライフル。lie luck 反転した幸運。

なにかを守ろうとしていたことはうすぼんやりと覚えている。
だがそれは遠い記憶で、重い蓋をした、忘れ去るつもりで過去の過去だ。
今はただ金を欲していた。何故、何のためか？理由などどうでも良かった。
自分の行動の結果で何がどう変わろうと、さしたる興味もない。しっぺ返しすら気にも留めていない。

仕事柄、意味の分からないオーヴァードというものに接する機会もあった。
現実味はなく、ただ漠然と、こいつらと正面から殺り合ったら勝ち目はないのだからということだけ感じていた。
なら、自分がその力を手にしたらどうだろう。
自在に毒を操れるようになった頃から、FHの依頼を受けるようになった。
彼らにしてみれば未端の末端、要員すら割きたくない些細な仕事だったのだから。
それでも「人間」だった自分からしてみれば、リスクと払いが良い意味で釣り合わず都合の良い仕事だった。
かき集められた子供たちがひとり消えふたり消え、残った者たち同士で殺し合いをさせ、そうして強力なオーヴァードを「造り出している」と知るまでは。
幾人もの人間を屠ってきた自分が、何を言っているのだろうか。何を言える資格があるのだろうか。
それでも——古傷が抉られ、疼くことを止められなかった。
いつしか自在に血を操れるようになり、これが罰なのかと、諦めを持ってFHに手を貸すのを止めた。